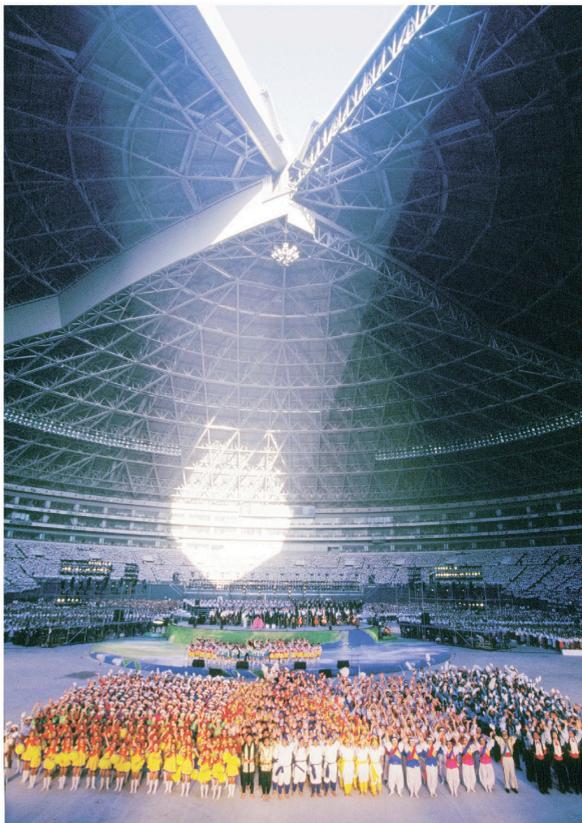




HEROES  
ヒーローズ



逆境を勝ち越えた英雄たち

池田大先生を迎え、5万人が「歓喜の歌」を歌い上げたアジア青年平和音楽祭。会場となった福岡ドーム(当時の屋根が開き、陽光が差し込む(1994年11月)



ベートーベンの肖像  
Photo by Universal History Archive/Getty Images

どんなことがあっても運命に打ち負かされない。生命を千倍生きることが全くとすばらしい!

第47回 ベートーベン (11月10日付)

「第九」として世界中で愛される交響曲第9番。今年、このベートーベンの傑作が初演された200年の節目に当たる。最終楽章の「歓喜の歌」は、日本でも親しまれる。年末の風物詩だ。「難聴」という音楽家にとって致命的ともいえる過酷な現実と向き合い、「第九」を完成させた

「第九」として世界中で愛される交響曲第9番。今年、このベートーベンの傑作が初演された200年の節目に当たる。最終楽章の「歓喜の歌」は、日本でも親しまれる。年末の風物詩だ。「難聴」という音楽家にとって致命的ともいえる過酷な現実と向き合い、「第九」を完成させた

「第九」として世界中で愛される交響曲第9番。今年、このベートーベンの傑作が初演された200年の節目に当たる。最終楽章の「歓喜の歌」は、日本でも親しまれる。年末の風物詩だ。「難聴」という音楽家にとって致命的ともいえる過酷な現実と向き合い、「第九」を完成させた

「第九」として世界中で愛される交響曲第9番。今年、このベートーベンの傑作が初演された200年の節目に当たる。最終楽章の「歓喜の歌」は、日本でも親しまれる。年末の風物詩だ。「難聴」という音楽家にとって致命的ともいえる過酷な現実と向き合い、「第九」を完成させた

「第九」として世界中で愛される交響曲第9番。今年、このベートーベンの傑作が初演された200年の節目に当たる。最終楽章の「歓喜の歌」は、日本でも親しまれる。年末の風物詩だ。「難聴」という音楽家にとって致命的ともいえる過酷な現実と向き合い、「第九」を完成させた

「第九」として世界中で愛される交響曲第9番。今年、このベートーベンの傑作が初演された200年の節目に当たる。最終楽章の「歓喜の歌」は、日本でも親しまれる。年末の風物詩だ。「難聴」という音楽家にとって致命的ともいえる過酷な現実と向き合い、「第九」を完成させた

「第九」として世界中で愛される交響曲第9番。今年、このベートーベンの傑作が初演された200年の節目に当たる。最終楽章の「歓喜の歌」は、日本でも親しまれる。年末の風物詩だ。「難聴」という音楽家にとって致命的ともいえる過酷な現実と向き合い、「第九」を完成させた

「第九」として世界中で愛される交響曲第9番。今年、このベートーベンの傑作が初演された200年の節目に当たる。最終楽章の「歓喜の歌」は、日本でも親しまれる。年末の風物詩だ。「難聴」という音楽家にとって致命的ともいえる過酷な現実と向き合い、「第九」を完成させた

環境クリエイターって、どんな人？

高砂熱学には、あたらしい空気を生み出す、さまざまな人がいます。人々のくらしをつつみ、つないでいく。その空気も、それをつくる人の姿もみえない。だけど、感じる事ができる。ほら、深呼吸をするたびに、空間で培った技術で、その神組みをこえて。私たちは、人に、社会に、最適な空間を生みだしていきます。

環境革新で、地球の未来をきりひらく。

環境クリエイター®  
高砂熱学

4面に続く



連載「ヒーローズ」の過去記事が電子版で読めます(有料会員)

ご意見・ご感想をお寄せください 【メール】 news-kikaku@seikyo-np.jp 【ファクス】 03-5360-9613